

保護者・学生のためのより詳しい説明

実際の入試問題を使って、この講座の効果をご説明します

7/10

メディカル英語 No.8

医学英語の患者教育資料を読む —— Plain Languageの原則と平易表現を読む

★ 清光学院の講師は、大学教員としてこれまでに皆さんのお子さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何十年も採点し合否判定を行ってきた当事者です。医学英語の患者教育資料で「専門英語が多くて読めなかった」と手が止まる受験生と、Plain Languageの原則を知って平易表現のパターンを読み解いた受験生の評価の差を、採点者として繰り返し目にしてきました。

1. この講座が有効な入試問題のタイプ

① 患者教育資料・説明文書の英語読解

慶應義塾大学医学部・東京科学大学・昭和大学医学部の英語では、患者向け説明文書・退院後指導などのPlain Language文書が題材として使われる。能動態・短文・専門語回避というPlain Languageの原則を知る受験生は、文書の意図と内容を素早く正確に把握できる。

② 医学専門語と平易表現の言い換え問題

「この文書でhypertensionをhigh blood pressureと言い換えているのはなぜか」という設問は、患者教育資料の読解で出題される。Plain Languageの原則を知る受験生は即座に対応できる。

③ 医学部推薦の事前課題・口頭試問

患者教育資料を事前課題として読む形式の推薦入試では、「この文書の問題点を指摘せよ」という問いが面接で出される。Plain Languageの視点を持つ受験生は準備の質と面接対応力が他の受験生と明確に異なる。

2. 具体的な大学・学部との対応

大学・学部	出題の傾向	本講座との対応
慶應義塾大学 医学部	患者教育資料の英語読解・内容説明問題	Plain Languageの原則が情報抽出の速度と精度を高める
東京科学大学	医学英語の平易表現・内容説明問題	Plain Languageの習熟が処理速度に直結する
関西医科大学・近畿大学 医学部	医学英語の読解・設問処理	患者資料の構造を知ることによって設問対応力が高まる
医学部推薦・総合型選抜（全般）	患者教育資料を前提とした口頭試問	Plain Languageの視点が面接対応力を高める

3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

患者教育資料の英文を「専門語が少ないから簡単」と思って漫然と読む受験生は、資料の意図や問題点を見落とす。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）Plain Languageの原則で患者教育資料の意図を読める、（2）専門語と平易表現の言い換えを正確に把握できる、（3）医学部推薦の事前課題と面接対応力が高まる、という変化が起きる。

何十年も医学部の英語答案を採点してきた清光学院の講師陣は、患者資料の読解で「漫然と読んだ答案」と「Plain Languageの視点を持った答案」の評価の差を採点者として知っている。